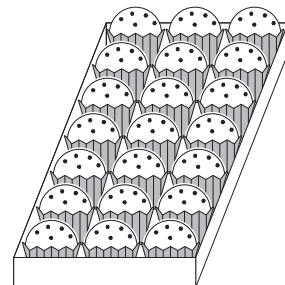
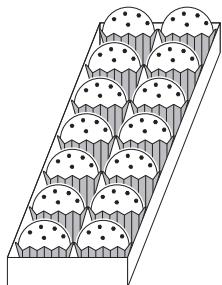


1

カップケーキが、下のように売られています。1箱14個入りで1050円の**Aセット**と、1箱21個入りで1470円の**Bセット**があります。



Aセット (14個入り)
1050円

Bセット (21個入り)
1470円

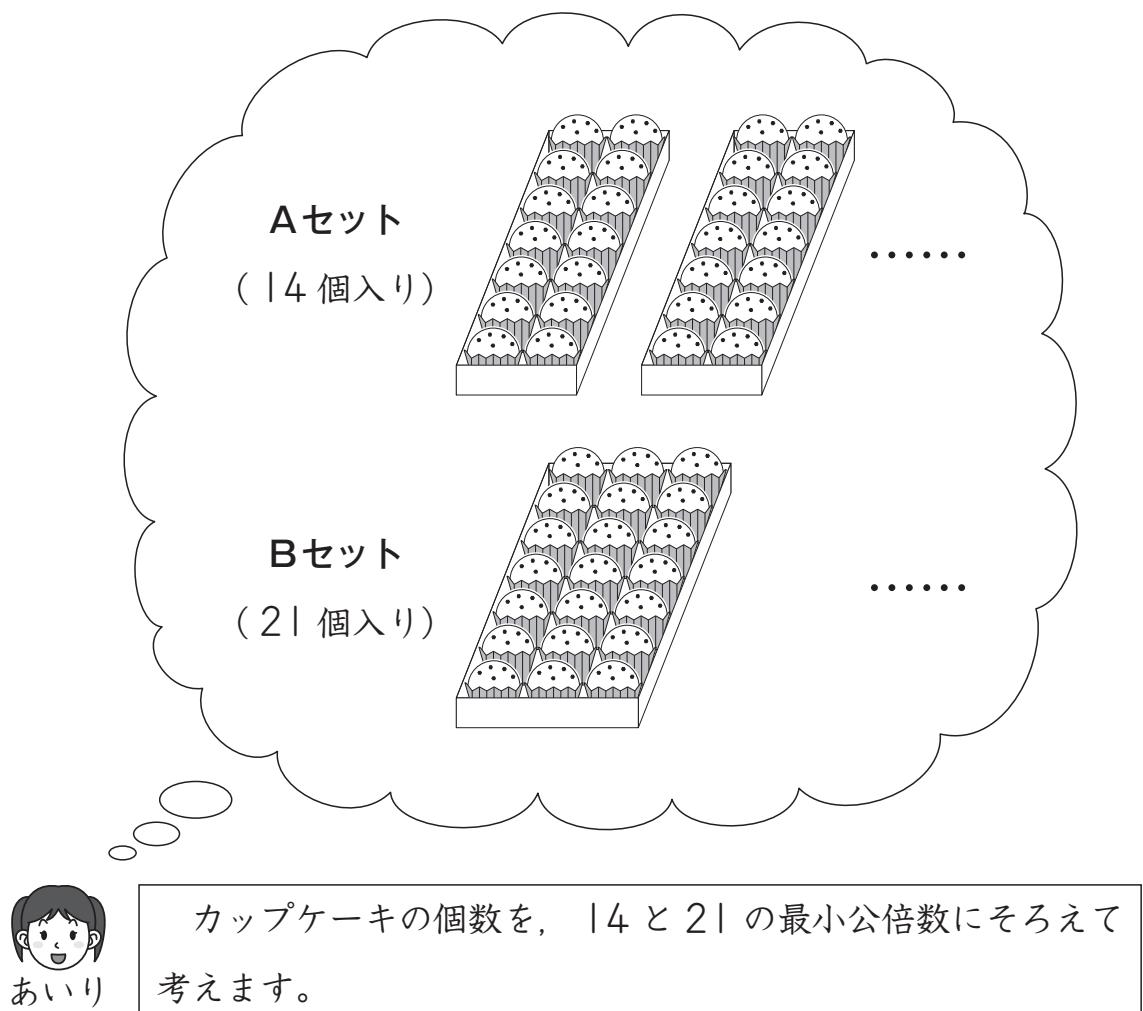
(1) ゆうとさんは、**Aセット**を4箱買うことにしました。

Aセット4箱分の代金を求める式は、 1050×4 です。

1050×4 を計算しましょう。

あいりさんたちは、AセットとBセットのカップケーキを同じ個数にそろえたとき、どちらのほうが安くなるのかについて考えています。

(2) まず、あいりさんは、AセットとBセットをそれぞれ何箱か買ったとして、考えることにしました。



14と21の最小公倍数を書きましょう。

- (3) 次に、くるみさんは、カップケーキの個数を7個にそろえて考えることにしました。

【くるみさんの考え方】

Aセットのカップケーキ7個分の値段 $1050 \div 2 = 525$ 525円

Bセットのカップケーキ7個分の値段 $1470 \div 3 = 490$ 490円

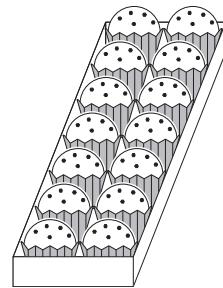
カップケーキ7個分の値段は、Bセットのほうが安くなります。



あいり

Aセットのカップケーキ7個分の値段を、 $1050 \div 2$ で求め
ることができるはどうしてですか。

ゆうとさんは、Aセットのカップケーキ7個分の値段を、【くるみさんの考え方】の中の「 $1050 \div 2$ 」で求めることができるわけについて、下のように説明しました。



Aセット (14個入り)

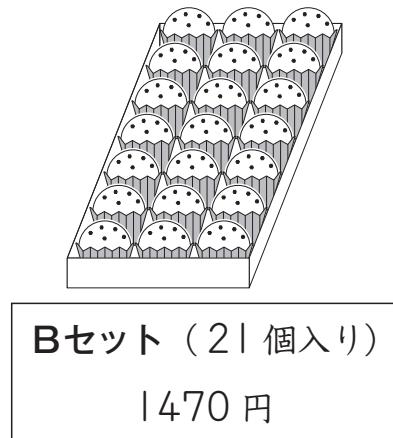
1050円



ゆうと

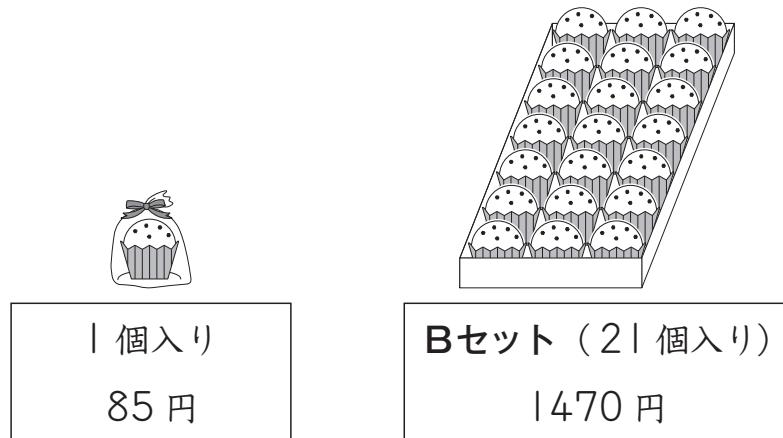
1列のカップケーキが7個ずつ2列あります。2列の値段が1050円なので、1050を2等分すれば1列に並んでいるカップケーキ7個分の値段を求めることができます。

Bセットのカップケーキ7個分の値段を、【くるみさんの考え方】の中の「 $1470 \div 3$ 」で求めることができるわけについて考えます。そのわけを【ゆうとさんの説明】と同じように、言葉と数を使って書きましょう。



(4) カップケーキが 1 個入り 85 円でも売られています。

くるみさんは、1 個入り 85 円のカップケーキ 21 個分の値段と、**B**セット 1 箱分の値段である 1470 円を比べることにしました。



1 個入り 85 円のカップケーキ 21 個分の値段は、 85×21 で求めることができます。



くるみ

85×21 の答えが 1470 より必ず大きくなることは、 85×21 をそのまま計算せずに、85 と 21 をがい数にして計算してもわかります。

85×21 の答えが、1470 より必ず大きくなることがわかるためには、「85」と「21」をどのようにがい数にして計算するとよいですか。

下の ア から エ までのなかから 1 つ選んで、その記号を書きましょう。

ア 85 を小さくみて 80, 21 を小さくみて 20 として計算します。

イ 85 を小さくみて 80, 21 を大きくみて 30 として計算します。

ウ 85 を大きくみて 90, 21 を小さくみて 20 として計算します。

エ 85 を大きくみて 90, 21 を大きくみて 30 として計算します。